

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年6月17日～6月23日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年6月25日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア戦争での行方不明者捜索の協力メカニズム第3回会合が開かれる(17日)

・1992年～1993年のアブハジア戦争での行方不明者の遺体の捜索に関するプログラム。国際赤十字委員会が主催。グルジアとアブハジアの代表者が参加し、エレヴァンで会合が行われた。

▼ブガンバ「国会議長」がモスクワを訪問し、ナリシュキン露国家院議長と会談(19日)

・アブハジアとロシアの議会間の協力を検討。

▼ラケルバイア「首相」がモスクワを訪問(19日)

▼サンクトペテルブルクで開催された国際経済フォーラムにアブハジア代表団が参加(20日)

▼「一水会」の代表団がアブハジアを訪問(20日～21日)

・アンクワブ「大統領」、ハラジア「議会副議長」、アルシバ「外務大臣代行」、アブハジア「商工会議所」と会談。

【南オセチア】

▼第35回IPRM会合(21日)

- ・状況は落ち着いているとの見方で一致。
- ・行政境界線付近でのフェンスの建設の活発化およびそれが地域住民に与える影響などについて議論。
- ・次回のIPRM会合は7月30日の予定。

2. 外 政

▼アラサニア国防大臣がアゼルバイジャンを訪問(17日)

・アビエフ・アゼルバイジャン国防大臣と、両国の軍事協力や地域の軍事・政治状況について会談。

▼ウスパシヴィリ国会議長がブリュッセルを訪問(17日～19日)

・欧州議会外交委員会で国内の改革について話し、とくにメラビシヴィリ前首相の逮捕に関して多くの質問に答えた。

・シュルツ欧州議会議長、デグフト欧州委員(通商担当)、フューレ欧州委員(拡大・近隣政策担当)、ベルギーの国会議長らと会談。会談後、ウスパシヴィリ議長は、11月のヴィリニウスサミットでグルジアは大きな前進を得るだろうとコメント。

▼ウスパシヴィリ国会議長がロンドンを訪問(19日～22日)

・20日、イギリスの議会議長、与党党首、各大臣、外交委員会委員長、貴族院議員らと会談。グルジアと英国の議会間の協力を検討。

・21日、BBCのインタビューで「ヨーロッパへの道を確認可能なものにするためにまだ多くの為すべきことがある」と述べた。前政権の要人の逮捕について、「新政権になって以後、多くの隠されていた事実が明らかになっているが、私はサーカシヴィリ大統領が逮捕されるとは思わない」と発言。

▼トルキアニ法務大臣がアルメニアを訪問(18日)

・サルグシャン・アルメニア首相と司法制度の分野での両国の協力について会談。ほかにアルメニアの法務大臣、検事総長らと会談。

▼OSCE議長としてコジャーラ・ウクライナ外務大臣がグルジアを訪問(18日～19日)

・サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、パンジキゼ外務大臣と会談。

・パンジキゼ外務大臣とジュネーヴ会談について意見を交換。南オセチア行政境界線付近のフェンスの建設について懸念を表明。

・パンジキゼ外務大臣とともに在グルジア・ウクライナ大使館の新しい建物の開館式に出席した。

▼米国務省が「2012年人身売買報告書」を発表(19日)

・グルジアは「政府は努力しているが、人身売買を撤廃する最低限の基準を満たしていない」として、ランク2と評価された。過去6年間連続でランク1(人身売買を撤廃する最低限の基準を満たしている)と評価されていた。

▼フォルバエクOSCE少数民族高等弁務官がグルジアを訪問(19日～21日)

・イヴァニシヴィリ首相、パンジキゼ外務大臣と会談。被占領地域の状況や国内避難民の問題、行政境界線でのフェンスの建設などについて話す。

・南オセチア行政境界線付近の状況を視察。

▼サーカシヴィリ大統領がウィーンで開催された欧州人民党(EPP)の拡大サミットに出席(20日)

・2008年以降「統一国民運動」はEPPのオブザーバーメンバー。

・マルテンス EPP 党首、オルバン・ハンガリー首相と会談。

▼ザルカリアニ外務次官がウィーンでOSCEの年次安全検討会議に出席(20日)

・行政境界線付近の状況について説明。

3. 内 政

▼審理前勾留下のメラビシヴィリ前首相がテレビを要求してハンガーストライキを始める(17日)

・法律では、親族の差し入れるテレビ・ラジオは、勾留所の内規に反しない限り、施設長の許可によって勾留者に提供される。

・19日、テレビが与えられることになり、ハンガーストライキを中止。

▼統一国民運動(UNM)が大統領選挙の候補者を決定する党内投票を6月末に実施すると発表(17日)

▼サメグレロ地方で土中に隠された大量の武器を発見(17日)

・内務省が「前政権の内務省の高官の指示にもとづいて隠された」大量の武器、爆発物、麻薬・向精神剤および前政権時の野党のメンバーの写真・資料を土中から発見したと発表。「昨年10月の選挙で勝利した場合に、前政権はこれらの人々を逮捕する計画であった」としている。

・統一国民運動の議員は、見つかった武器が国防相の秘密の武器庫であった可能性を指摘したが、ガリバシヴィリ内務大臣とアラサニア国防大臣は、武器は内務省でも国防相でも登録されていないとして、その可能性を否定。

・23日、サーカシヴィリ大統領は、見つかったとされる武器は「2008年の戦争の後、侵略が再開された場合に備えて、私が指示して国じゅうにつくらせた秘密の武器庫の一つだ」と述べた。

▼被収容者を虐待したとして内務省および国防省の元職員・現職5名が逮捕される(18日)

・内務省によれば、17日にサメグレロ地方で発見された大量の武器とともに保管されていたビデオテープに、法執行機関の職員が2人の被収容者を虐待する映像が記録されていた。映像をもとに5名が逮捕された。さらに数名が指名手配され、捜査が進められている。

・23日、サーカシヴィリ大統領は、ビデオテープが武器とともに見つかったのかどうか疑わしいとコメント。

▼ウグラヴァ・トビリシ市長の公判前手続きが開始される(19日)

・テレビ局「イメディ」および「Tbiliservisgroup」の事件に関連した公金の不正使用、資金洗浄で起訴されている。

・審問は7月3日に延期された。

▼イヴァニシヴィリ首相が大統領選挙後の辞任を示唆(23日)

・19日に行なわれたエストニア紙「Postimee」のインタビューでイヴァニシヴィリ首相は「大統領選挙後間もなく私は政治から去る」と述べた。

・23日、インタビューの内容について記者に尋ねられ、「大統領選挙の後、グルジア国内の状況は全く変わり、政府は私の助けが要らなくなるだろう。より必要とされている社会の発展に取り組みたい」「私の夢は20年以内

にヨーロッパ型の社会を築くことである」「(辞任が)もし国にとって悪い結果をもたらすおそれがあるなら、もちろん私は辞任しない」と述べた。

4. 経 済

▼グルジア鉄道が経営計画を発表(17日)

・取り組むべき主な課題として鉄道システムの近代化、安全の強化、とくに中央アジアからの貨物の誘致、税制調和が挙げられた。

・アフガニスタンからの小麦、綿、石炭などの関税の決定についてアゼルバイジャンと協議しており、決定により貨物量の増大が見込まれる。

・クヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣はバクー・トビリシ・カルスを結ぶ鉄道の早期の完成の意義を強調。

▼2013年第1四半期の国内総生産(19日)

・国家統計局によれば2013年第1四半期の名目GDPは5782.8百万ドル。実質成長率は前年同期比2.4%。GDPデフレーターは+0.4%。

▼米ミレニアム挑戦公社(MCC)がグルジアの科学技術教育を支援する5年間のプログラムに1億4千万ドルの拠出を決定(20日)

・MCCはインフラ整備のための約4億ドルの第1期5年間のプログラムを2011年3月に完了した。第2期のプログラムは科学技術教育の支援に充てられる。

▼米紙「The Wall Street Journal」がグルジアにおけるイラン人のビジネスの活発化についての記事を掲載(21日)

・グルジアにおけるビジネスが対イラン経済制裁の回避に利用されていると指摘。

・21日、トルキアナ法務大臣は、「政府はイラン人のビジネス活動を注意深く監視しており、対イラン経済制裁の実施を厳重に管理している」と述べた。「ツ」法務大臣によれば、これまでに政府はイラン系個人・法人の約150の銀行口座を凍結した。

▼2013年1月～5月の貿易統計(23日)

・国家統計局によれば2013年1月～5月の貿易額3881百万ドル(前年同期比4%減)、輸出額1001百万ドル(同4%増)、輸入額2880百万ドル(同7%減)。貿易収支は1878百万ドルの赤字。

▼ゴリでカルトリ・ワイン・フェスティバルが開かれる(23日)

・大統領府が主催。サーカシヴィリ大統領も参加した。大統領府によればグルジアじゅうでフェスティバルが行われる予定。